

10/23(土)

14:30～ 受付開始

15:00～ 「在宅における医療的ケアの現状と課題」

講師：杉本健郎・川口有美子

18:00～ 懇親会

参加費：無料 懇親会費：2000円

場所：医療法人 永原診療会自在館

＞京都府京都市上京区浄福寺通上立売上る大黒町686

近年の医療技術の進展や医療・福祉制度の改革に伴い、たん吸引や経管栄養などの医療的ケアを必要としながら、地域で生活する人たちが増えてきています。医療的ケアは、重度障害児から難病患者、中途障害者から高齢者まで幅広い方々にとって大きな問題となっています。厚生労働省は、2003年からヘルパーによるたん吸引の容認に向けた分科会を立ち上げ、その後、医療的ケアの容認に対象を拡大する通達を数度出し、2010年においては実施できる行為の範囲に胃ろうも加え、看護師の指導や介護職への研修などの実践的な議論がされ始めました。今まさに在宅医療と福祉にとっては大きな節目を迎えようとしています。

そこで、今回は重度障害児の医療的ケア問題に取り組んできた杉本先生と、現在国の検討会議論に加わっておられる川口有美子さんをお招きし、それぞれの立場から医療的ケアの現状や課題などを御講演いただきます。

★杉本健郎（すぎもと・たてお）

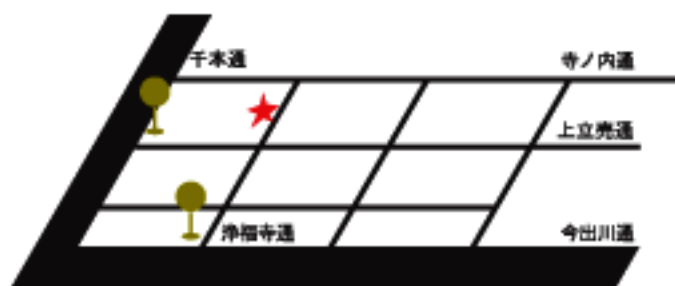
1948年生まれ。日本小児科学会倫理委員会委員、日本小児神経学会理事、NPO法人医療的ケアネットワーク理事、すぎもとボーン・クリニック院長。

関西医科大学小児科助教授、カナダ・トロント小児病院神経科客員教授など歴任。子息を交通事故で失った経験から脳死臓器移植問題に関わり、医師として、ドナー家族として揺れる思いを語ったNHK特集は大きな反響を呼んだ。臓器移植問題では、「子どもの脳死・移植」「着たかもしれない制服」などの著書がある。小児科医から重症心身障害児者施設「びわこ学園・第二びわこ学園」園長として障害児福祉に場を移し、2007年設立のNPO法人「医療的ケアネットワーク」の理事長に就任した。地域医療と福祉問題では「医療的ケア」ネットワーク—学齢期の療育と支援、「重症児教育」、「障害医学への招待—特別支援教育・自立支援法時代の基礎知識」、「医療的ケア研修テキスト」、「医療的ケアはじめの一步」などの編著書がある。

★川口有美子（かわぐち・ゆみこ）

1962年生まれ。日本ALS協会理事、ALS/MND国際同盟会議理事、NPO法人ALS/MNDサポートセンターさくら会理事、訪問介護事業所ケアサポートモモ・代表取締役。

東京都内の小学校教員をしていたが、夫の海外勤務のためフィラデルフィア、次いでロンドンに渡る。1995年に、日本にいた母がALS（筋萎縮性側索硬化症）を発症し、介護のため帰国。2003年に訪問介護事業所ケアサポートモモ、NPO法人ALS/MNDサポートセンターさくら会を設立する。現在、立命館大学大学院先端総合学術研究科在籍中。ALSの在宅療養や医療福祉の制度的研究など幅広く、在宅療養の施策や国際的ALSネットワークの構築にも取り組む。13年間の在宅介護の体験と葛藤、介護のありようを綴った著書「逝かない身体—ALS的日常生活を生きる」は、2010年大宅壮一ノンフィクション賞を受賞する。その他、「在宅人工呼吸器ポケットマニュアル—暮らしと支援の実例」などがある。



地図 <http://www.nagahara.or.jp/sst.html#map>

京都市バス51・59・203・201系統「今出川浄福寺」下車徒歩5分
6・46・206・59系統「千本上立売」下車徒歩5分

事前申込みにご協力いただけましたら幸いです。下記までご一報下さい。ご不明な点につきましても、お気軽にお知らせください。当日は同会場にて懇親会も予定しております。美味しい料理をご用意しておりますので、是非ともご参加下さいませ。

地域生活を考える会運営事務局

090-9703-7873

perryfarrellad@yahoo.co.jp（堀田）



地域生活を考える - その5

コワくないかもしれない医療的ケアの話

10/23(SAT)

講師 すぎもと たてお・かわぐち ゆみこ

司会 たていわ しんや